

令和7年度 第2回 自転車の活用推進に向けた有識者会議

前回の振り返り





分類	主なご意見
ヒアリング及びアンケートの結果概要に対する意見	①多種多様なご意見をいただいております、今後の議論で大変参考になる。
次期自転車活用推進計画のビジョンに対する意見	①ビジョンの設定は進めて欲しい。内容について、<u>ウォークブル推進も含めたまちづくり施策との整理等、自転車のみの視点で縦割りにならないよう留意が必要</u>である。 ②ビジョンでは重要な施策を網羅しているが、各自治体での取組が進むよう、<u>優先順位を伝える工夫</u>があるとよい。 ③日本は自転車を重視していないから、<u>子どもを自転車に乗せたくない、自転車の利用を避ける、といったイメージを国民に持たれないよう</u>、ビジョンの建て方に留意する必要。 ④ビジョンの「誰もが」という言葉について、<u>結局誰のために行う施策か、対象を明確化</u>するよう伝え方を工夫したほうがよいのではないか。 ⑤ビジョンの「<u>誰もが安全・快適に自転車を活用できる社会</u>」は良いフレーズと思うが、<u>施策の対象者やその課題を整理</u>することが課題である。 ⑥ビジョンには「誰もが」とあるが、<u>自転車に乗れない人もいる</u>。例えば「<u>誰にとっても安全・快適な自転車環境を実現し・・・</u>」という表現も考えられる。 ⑦自転車に乗ることと歩くことを並列に考え、<u>歩行者への配慮も踏まえた自転車活用</u>についてビジョンで打ち出すと良いのではないか。 ⑧<u>健康長寿社会において自転車がどのように貢献していくか</u>という視点をビジョンに盛り込むとよいのではないか。 ⑨ビジョンについて、<u>日本人と自転車の歴史も踏まえ、公共交通との接続等の日本の特徴について記す</u>と、より深い内容になるのではないか。 ⑩次期計画では「<u>安全・安心</u>」だけではなく「<u>楽しさ</u>」も打ち出せると良い。学生への交通安全教室も楽しさを伝え、大人になっても自転車に乗ってほしい。 ⑪<u>自治体の機運向上</u>につながるような、<u>分かりやすく共感できるビジョン</u>を打ち出してほしい。自転車利用の経済効果等を根拠と併せて示せると良い。 ⑫国の自転車計画では、関係省庁一丸となって総合的に計画を進めていくというメッセージを発信するとともに、自治体の計画が各地域の課題に対応した実行力を持てるよう、<u>自治体の自転車計画に対する国の考え方の整理案も意識</u>すべき。 ⑬方向性と理念に相当するビジョンをしっかりと示すことは絶対にやって欲しい。キャッチフレーズと具体的目標がセットになったドイツの構成は適当と思うが、<u>現状をしっかりと分析・把握し、フレーズだけで終わらないようにしてほしい</u>。ビジョンのフレーズについては、各省庁の若手職員で議論することも考えられるのでは。



分類	主なご意見
次期自転車活用 推進計画の目 標・施策・指標 に対する意見	①目標から指標のつながりは、 ロジックモデルで整理すると分かりやすい のではないかな。
	②外国人の多い自治体が増えてきているなか、 自転車の安全やマナーを外国人にきちんと伝えることも重要 である。
	③交通安全は、自転車業界だけで取り組んでも効果は限られ、 自動車メーカーや損害保険会社など他業種と情報通信分野での連携が必要 である。
	④全ての自転車利用者に交通安全ルールを理解してもらうことが重要であり、 学校教育のカリキュラムに組み込めないか 。
	⑤ 自転車の走行環境の整備も、歩行者の安全を第一に考えて行ってきた 。ミスリードがないよう、その姿勢をしっかり示すことが必要である。
	⑥徒歩と自転車（アクティブモビリティ）で暮らせる地域をつくるために、 道路空間を再配分することが伝わる といい。
	⑦通勤・通学における通行空間の安全確保など 日本らしい通行空間のあり方を検討 できるとよい。
	⑧ 自転車の製造・販売・メンテナンスは重要 であり、 自転車産業の振興や先進技術の活用・開発 にも力を入れるべき。
	⑨サイクリングのジャパンブランドの確立のため、外国人が多く参加するイベントやルートだけではない 地域自体の魅力を積極的に発信 すべき。 ナショナルサイクルルートも、海外からの見え方も踏まえ統一的な規格などが必要 ではないか。
	⑩ツーリズムについて 観光地域づくりや地域活性化の視点は重要 。サイクリング環境の整備だけでなく、 商流やマーケットを併せて作っていくことも必要 。
	⑪ オーバーツーリズム対策 として、 観光地の移動手段としての自転車活用や、外国人の交通ルールやマナーの視点も重要 である。
	⑫次期計画は、ナショナルサイクルルート、サイクルトレイン、シェアサイクルなど、 個々の非常に魅力的なポテンシャルを有する取組をさらに広めていくきっかけ となるものになるとよい。